

# ふれあい 支えあう すこやかなまち 住みよい高須 たかす社協だより

第 11 号 (秋・冬編)  
令和元年 12月 15日発行  
高須地区社会福祉協議会  
発行責任者 香月 英彦

## 2020 「だれひとりも取り残さない」

安心して住めるまちへ 高須地区社会福祉協議会 会長 香月英彦

40年近くを経過した高須のまちをぐるりと一回りすると、散策のみち「思楽緑道」の街路樹も大木となり、市民センター横の桜の木も老朽化で切り倒されるなど「たかすのまち」の年輪を感じます。

令和に入り、かつて1300人を超えた児童の数も350人ほどになり、高須の高齢化率は31.4%（北地区は50%のところも）となりました。人生100年といわれる時代の地域福祉の風土づくりとそれに根ざしたまちづくりが求められています。

- (1) 今！2025年（団塊の世代が75歳以上）に向かっの福祉のまちづくり＝「まずは、住民どうして支え助け合うまち」のしくみづくりを推進！
- (2) 「健康寿命を伸ばし、高齢になっても元気に活躍できる成熟のまち」に高須地区社協は、まち協や自治会をはじめ各団体、さらに大学や施設・病院・民間企業などと密接につながって、そのしくみづくりにチャレンジしています。



具体的には、気軽に立ち寄れる「サロン」活動、生活支援の「たかすちょこっと応援タイ」、「日ごろの健康づくり」、緊急発進の「たかすSOSネットワークシステム」などを進めています。

生活習慣病、がんや認知症など身体や精神の高齢化による「フレイル（虚弱化）」でまちもひととも老齢・弱体化を憂うよりも克服する方法を考え、「互いが支えあう成熟のまち」に再構築していく努力が必要

とまろまろ

高須地区社会福祉協議会では、今回の認知症行方不明者捜索模擬訓練に際し、右のポストカードを作り、認知症や認知症の方への対応、具体的な「たかすSOSネットワーク」の連絡などの啓発をしています。先日の訓練の時にも、捜索中に会った方や、コンビニエンスストアなどにお配りしています。すでに受け取って頂いた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。行方不明事案や緊急の事件事故はもちろん110番が第一ですが、同時にたかすSOSネットワークも活用してくださいね。

また日常のちょっとしたお困りごとにはたかすちょこっと応援タイ (080-8353-1673)

高齢者のみの世帯・障害のある方の世帯で、生活のちょっとした家事作業のお困りごとを、チケット制でお手伝いします

福祉協力員または高須市民センターに配属の「高須地区生活支援相談員」にご相談ください  
(月・水・木・金 12:30～16:30)

地域安心声かけ訓練 高須地区社会福祉協議会  
「認知症行方不明者捜索模擬訓練」実施中

認知症の方は目的があって外出しますが、途中で目的を忘れてしまい、そのまま行方不明になる恐れがあります。いち早く見つけて、声をかける訓練を行っています。

- 声かけの時の3つの“ない”
- 1 おどろかせない
  - 2 いそがせない
  - 3 自尊心を傷つけない



## たかすSOSネットワーク

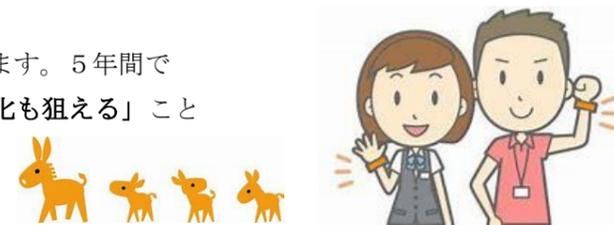


## 『たかすの社協はじめ、まち協、自治会など応援します』

大きなビジョンをかかげ、先進的なまちづくりを目指す高須地区社協に共感。「たかすリビングラボ」の手法で、北九州市立大や行政・民間とコラボした展開を提案し「訓練」に応用しました。「みんなの意見は、案外正しい」のだそうです。（市保健福祉局係長 柿添英一氏）

初めての模擬訓練の準備段階からずっと近くで応援しています。5年間でいまや「高須、我がまち」 模擬訓練から「まちづくりの進化も狙える」ことがわかります。今後ともよろしくお祈りします。

(地域活動支援コーディネーター 中村真理子氏)



## 第4回たかす認知症行方不明者捜索模擬訓練開催R1.11.17 (認知症に優しいまちに)

長寿を謳歌できる時代の課題・生活習慣病やがんの予防・介護と同じように、

「認知症」を正しく理解し「いのち」を大切に病気に優しいまちに！（報告・文責 香月英彦）

小春日和の11月17日9:30～開催。高須市民センターを中心に7方向に認知症役の方を配置し捜索訓練をしました。今年自治会の組長さんや北九州市立大の協力もあり106名が集まり、盛況でした。会長から認知症役7名（岩田、森田、眞熊、山品、三浦、中村、写真右）の紹介の後、直近

で高須でも行方不明の認知症の方を隣町で発見した事例の話がありました。若松警察署川口生活安全課長からは若松区の認知症行方不明者などの捜索依頼は、年間60件を超えており、警察犬を使った捜索もしているとの事。

遠方に出かける方もいれば、以外と自宅付近にいる場合もある。行方不明に気づいた時は直ちに110番へ連絡をする事。若松消防署ひびきの分署金原係長からは事故の緊急連絡は119番をする事。安全な訓練を心掛けるようにとのお話がありました。熱演！若松区社協の寸劇で怒りには反発！目線を



あわせて優しい対応を学んだ後（写真左）捜索隊を地域参加者と施設・行政・大学の専門家などを混合した17グループに分け、情報を分析して高須の7方向に向かって捜索に出発しました。認知症役もそれぞれ工夫して対応。車班はGPSを使用しました。

**発見時** 目線をあわせて優しく対応を実践。まずは「こんにちは」とあいさつから声かけしました。（写真右）

**連絡・通報** 発見時は本部へ時刻、場所、様子を電話連絡し、本部は地図に記載していきましました。

**報告・検討会** ワールド・カフェ方式で 認知症不明者役と捜索グループが一緒にテーブルにつき感想などを話し合いました。

**認知症サポーター講習会** 講師：中村地域活動支援コーディネーター

新時代に即応した「認知症を学ぶハンドブック」を基に、現場の対応は、「110番」をすること。認知症患者39,245人（2017年）の中で、不明者118件の通報があり、109件は戻りましたが死亡7件、不明2件のままである事。介護保険を申請する前の人や介護マークを貼っている家に注意が必要なこと。90歳代で2人に1人が認知症の可能性があるので、認知症とともに生きる宣言・助けてと言えらるまちにしましょう！講習の最後には認知症サポーター証授与式をし、参加者全員にサポーター証とオレンジリングを渡しました。

**総評** 坂本北九州市立大准教授

第4回の訓練に敬意。「継続が地域の力に」。地域の連携が薄れる時代に警鐘！大切なのは実践の訓練で、AIがどんなに進もうとも最後は人間同士の支えが要（かなめ）。今後の訓練の進化に期待するとお話がありました。

**手作りのカレーライスを囲んで交流会開催**

なごやかに交流・・・古園井食進担当と福祉協力員が前日から交流会用カレーづくりに奮闘しました。高須地区のみなさん、行政、大学などご参加ご協力ありがとうございました。

※写真（堀内雅之氏、吉田純子氏、田島剛氏、事務局提供）

